



最初の小石

●
竜田邦明 Kuniaki TATSUTA

早稲田大学 名誉フェロー・名誉教授, 日本化学会 名誉会員



小石が池に投げ込まれると、さざ波が生じ、やがて池全体に行きわたる。化学の世界に、自分自身が新しく石を投げ入れるためにも、化学に携わる者は何をすべきか、何をすべきでないかを常に明確にしておく必要があります。

テーマを検索することも方法を組み合わせることも容易になった現代だからこそ、独創的なテーマと方法論を最初に捻出することは今まで以上に最重要課題です。約50年前、ハーバード大学のR. B. Woodward先生に招かれて有機合成に従事し最先端を体感したが、最初に衝撃的な言葉を聞いた。「論文を読むな、自分自身の考えで進めろ」というものだった。他人の論文を読めば読むほど、その呪縛から逃れなくなってしまうのは事実であるが、徹底して「個」にこだわるべきであると心得た。

「個」に固執する頑固者をいかにして育てるか、IT全盛の現在に頭と体を動かすことの楽しさを教える難しさは想像以上である。化学の教育だけを例にとっても、初等教育から高等教育までの総合的なビジョンに欠けており、実験・研究が大好きな若い優秀な研究者を育てることは奇跡を待つに等しい。まずは、我々が重責を担って化学の重用性と有要性を、そして実験の楽しさを広く一般に知らしめなければならない。

化学者の多くは、化学が科学の中心であると自負しているが、それを維持するにも化学者が科学技術イノベーションの先頭に立って、現在の閉塞感を打ち破る責任と義務がある。しかし、最近、挑戦しなければならない難題には挑戦しない研究者が世界的に増えたように感じる。成果主義の弊害であるが、特に若い研究者にはチャレンジ精神を持ってほしい。他人の成果と哲学をモザイクのようにちりばめた一見きれいに見える研究ではなく、誰もが驚嘆するような革新性と芸術性の高い「美しい研究」を望みます。

また、グローバル化を体験するためにも、海外に留学して世界の俊才と一緒に学び、信頼関係を築きながら育っていく過程が大切です。留学生たちが友達の輪によって築く互恵的な人脈ネットワークは巨大です。ぜひ、世界の頭脳循環の潮流に自らを投じてほしい。

化学あるいは化学に基づく技術は、文化の基礎になり、グローバルな経済成長にも不可欠なものになってきたので、今まで以上に産学協同の重要性が増しています。産学協同において、学が産をリードした時代もあったが、現代では、お互いが引っ張り引っ張られる関係にある。日本化学会は産学協同のインターフェイスとしても機能してきたので、産と学の知を結集して実践的なイノベーションを先導し続けるように、そして、基礎研究において、多くの化学者が最初の小石を世界に投げ込むように願っています。

© 2023 The Chemical Society of Japan